

インクレチン関連項目

研究検査

2026年6月現在

検査概要

検査項目	Active GLP-1	Total GLP-1	Active GIP	Total GIP	DPP-IV 活性
検査方法	EIA	ECL	EIA	EIA	蛍光酵素法
材料	血漿（DPP-IV阻害剤入採血管）				血漿
必要量	0.7 mL	0.2 mL	0.4 mL	0.1 mL	0.3 mL
保存方法	-20℃以下	-70℃以下	-20℃以下	-20℃以下	-20℃以下
定量下限値	0.42 pmol/L	0.18* pmol/L	0.62 pmol/L	1.6 pmol/L	0.05 nmol/min/mL
納期	検体受領後 1カ月程度				

その他、糖尿病関連項目（PYY、sCD26、RAGEなど）も測定可能です。

*：測定値は、使用する試薬ロットに依存して変動する可能性があります。

特徴

- ・Active GLP-1およびActive GIP測定は、「ヒトにおけるインクレチン測定に関する指針」に準拠した固相抽出法を採用しております。
- ・固相抽出により血漿中の測定阻害物質の影響を低減します。
- ・異常高値の発生要因を抑制し、高精度なバイオマーカー測定を実現します。



Varioskan LUX
(Thermo Scientific社)



VersaMax™
マイクロプレートリーダー
(Molecular Devices社)

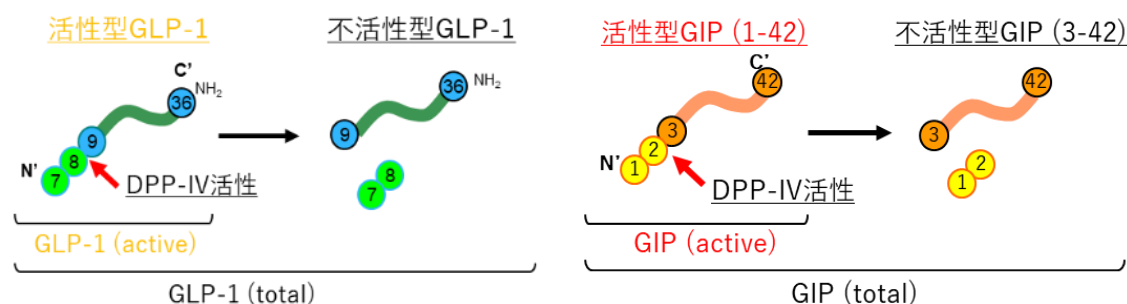
インクレチンについて

臨床的意義（測定意義）

GLP-1およびGIPは、インクレチンと総称される小腸由来のホルモンであり、食事摂取に応答して分泌されます。これらは膵β細胞に作用してインスリン分泌を促進し、血糖値の調節に重要な役割を果たしています。

一方で、GLP-1およびGIPは体内でDPP-IVによって速やかに分解され、不活性化されます。そのため、糖尿病治療においては、DPP-IVによる分解を受けにくいGLP-1受容体作動薬や、DPP-IV活性を阻害するDPP-IV阻害薬が広く使用されています。

さらに、近年ではGLP-1およびGIPが糖代謝のみならず、骨芽細胞機能やカルシトニン分泌などを介して骨代謝にも関与することが報告されており、骨代謝研究における有用な評価指標として期待されています。



性能データ

各キットで使用している抗体は、活性型と不活性型を特異的に識別して測定することができます。

Peptide	Cross Reactivity (%)			
	Active GLP-1*1 (IBL)	Total GLP-1*2 (MSD)	Active GIP*3 (IBL)	Total GIP*4 (Millipore)
GLP-1(7-36) amide	100	100	<0.1	ND
GLP-1(7-37)	100	34	N/T	ND
GLP-1(1-36) amide	N/T	25	N/T	ND
GLP-1(1-37)	0.04	15	N/T	ND
GLP-1(9-36) amide	0.02	38	N/T	ND
GIP(1-42)	ND	N/T	100	100
GIP(3-42)	<0.01	N/T	<0.1	100
Glucagon	ND	N/T	<0.1	N/T

*1) GLP-1, Active form (High sensitivity) Assay Kit - IBL

*2) MESO SCALE DISCOVERY MULTI ARRAY Assay System

*3) Human GIP, Active form Assay Kit - IBL

*4) *Journal of Diabetes Investigation*, 2011

"Comparison of incretin immunoassays with or without plasma extraction: Incretin secretion in Japanese patients with type 2 diabetes"

お問い合わせ



〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1
九州プロサーチ有限責任事業組合
<https://kpsl.jp/>